

(コーディネーター)

続きまして、事業番号 11、子ども芸術文化育成支援事業ということでご説明いただきます。

(説明者)

それでは子ども芸術文化育成支援事業について、ご説明させていただきます。この事業は子どもの特色ある芸術文化に関する創造活動を支援するために平成 18 年度から始まりまして、今年で 5 年目でございます。

事業の目的は、枚方市内において子ども向けの芸術文化事業を実施される方々、団体に対し事業支援を行うことによって、次世代を担う子どもたちに対する芸術文化の振興に資することを目的として、子どもの柔軟な発想や生き生きした豊かな心を育み、子どもが輝くまち枚方を実現するために行っている事業でございます。

支援の内容、事業の内容でございますけれども、支援の種類は 3 種類の支援がございます。まず、資金の助成ということで、1 件につき 30 万円以内で、予算の範囲内でこの助成をしている。また、会場の確保ということで、活動に必要な市の施設を先行予約し、使用料を減免するというところでございます。3 番目に広報活動について、広報ひらかたへの掲載や公共施設のへのチラシの配布など協力させていただいております。この対象事業となるのは、特色のある芸術観賞だったり、また、子どもたちが自らそういう舞台などを、美術などを体験する体験型の事業となっております。演劇だとかミュージカル、合唱のグループなど、芸能上演活動だとか、美術の創作活動を行うことで、本格的な芸術体験を経て子どもたちの感性が育まれればという狙いで行っております。

申請の流れでございますけれども、団体が前年度の 1 月か 2 月ごろの申請を受けて審査委員会で内容を審査し、支援する団体を決定する。申請団体側では、この決定を受けて必要な会場の確保、それは文化観光課等を経由して会場を押さえるわけでございますけれども、そして子どもたちを募集して事業を行う。

子どもたちが比較的、活動できる時間帯、まあ夏休みだとかに事業を行おうとすると、当然、年度の最初から事業に着手しないといけませんので、この審査というのを前年度の末に行っているのが現状でございます。具体的な事業については、補足資料の 52 ページをご覧くださいますとこれまでの実績と 22 年度の現在進行中のものを記載しております。

今年度 22 年度につきましては 3 件の事業を予定しております。その一つが美術の制作体験と発表というのがございましたけれども、これは夏休み中に終了いたしました。大変好評をいただいたようでございます。その後、10 月に演劇のワークショップと上演体験というのが 2 つの団体で予定されております。今月号、9 月号の広報にその参加者募集記事を掲載させていただいたところでございます。昨年度まで 4 年間で支援をし

た団体というのが合計 28 団体、延べ 1 万人程度の方にご参加いただいて、決算額の合計は約 291 万円でございます。

子どもがこの芸術活動に接して一日楽しむには、色んな人の工夫や創意工夫を凝らして参加、教育できる仕組みというのが必要であると思います。そうした役割を果たす本事業の継続というのは、継続して取り組んでいく必要があると私の方では考えておりません。

ただ、しかし一方で、申請内容の自由度が大きいといいますが、ジャンルが広いということの問題がありまして、一つは支援する団体が固定化してきているのかなと考えています。それは練習会場の先押さえをして減免をするということ、そのことによって支援を受けていない他の団体、一般の事業団体の発表に支障が出てきている、まあ、施設運営にも支障があるのではないかと考えてございます。これまで、助成金額を一定にして団体を増やすというような案も検討させていただきました。

ただ、演劇だとか、活動条件に見合った金額の申請ができなくなると、費用がかからない活動分野に偏ってしまうというおそれもあります。そういうところがあって、見直しというところには至っていないという状態でございます。実際のところ、支援が増えると、事務量が増えて煩雑になるということと、一つ一つ丁寧に対応できなくなるという可能性があるということ。文化、芸術の難しいところでもあるんですけども。また、指標についてですけども、申請団体数、支援数、参加者数ごとにコストを算出しております。

何といたしましても、子どもたちが舞台に立った感動とか、達成感、生き生き度というのは、数値で表すのは非常に困難だと思っております。非常に質の高い体験を提供できているとは思っておりますけれども、また、一定の成果は得られていると考えております。ただ、どこまでを支援すべきかについては、やはり絶えず見直しする必要があると考えております。会場の確保については文化活動を行っておられる他の一般の利用団体について、そういう活動に支障を来たすのであれば、これはやはり何らかの対応が必要ではないかと考えているところでございます。

簡単ですけども、説明は以上でございます。

(コーディネーター)

はい。ありがとうございます。

それでは議論に移りたいと思います。ご意見ある方いらっしゃいますか。

(仕分け人)

確認なんですけども、この子ども芸術文化育成支援についてということなんですけども、この事業、新しくそういう団体を興してやろうという人たちのための事業なのか、

もともとずっと団体を持って、活動した人らを固定的に支援したいと思っている事業なのか、どちらなのですか。

(説明者)

一定の来客実績がないと、それと活動の基本となるような組織でないと、補助金という形では交付しませんので、難しいとは思いますが、今までの団体だけでなく新しい団体にも交付できればというふうに思っています。

(仕分け人)

要は、考えようによっては、団体さんがこれから成長していくのを支援するためっていうことで助成するっていう考え方があると思うんですね。実際その団体が一定まで成果を挙げられるところまでいけば、当然、その時点で助成を打ち切るというのも。当然、一番成果が上がってるからこそ、もうそこまで育てたんだから助成を出さない、しない、そして成長中のところへまた市の税金を投入する。そういう考え方じゃないんですか。

(説明者)

仕分け人の方がおっしゃること、それは一時我々も考えておりました。ただ、この団体の方が提案された分を審査をして、市が共催をして、事業を実施するに当たっては、やはりそれを我々としても成功に導きたいというのがありますので、新しい、これからやろうという団体とその辺の審査の出来がなかなかわかりにくいというのがございます。そういった点で一定の活動実績を持たれたところで、提案されたところで、審査通って助成をしている。で、おっしゃるように、ある程度背中を押してあげたらその団体は一人立ちをしていく。この部分についても我々は一緒に考えたところで、ただ、新規でというというのはまだちょっとやってないというのが現状でございます。

(仕分け人)

ここの参加人数というのは、これは、お子さんの参加人数ですか。

(説明者)

これまでの実績の中での、参加人数については体験された子どもたち。それから、芝居に参加されたかたを含めておりますけれども、概ね子どもたちは、そのうち把握しているのが1,154人です。

(仕分け人)

では大人が2で子どもが1ぐらいの割合というイメージですか。例えば2,900人ぐらいが。

(説明者)

催しによってですね。

(仕分け人)

これは、舞台に立たれた方。それとも、お客さんとして聞いてらっしゃる、見てらっしゃる方も含めて。

(説明者)

両方です。

(仕分け人)

両方合わせてですか。

(説明者)

はい。

(仕分け人)

このぐらいの人数。この1,000人ぐらいっていうのは、舞台にたってる子どもっていうのは何人ぐらいなるんですか。

(説明者)

すいません、1,000人というのは合計の話で。

(仕分け人)

ええ、そうですね。

(説明者)

1万人のうち、1,000人ほどの子どもたちが舞台にたったという。

(仕分け人)

子どもたちは舞台に立っている子どもたちの数ですか。

(説明者)

はい。

(仕分け人)

なるほどね。お客さんとして聞いていらっしゃる子どもたちなりは、ここにはカウントされてない。

(説明者)

はい、子どもと大人の分け方はカウントできませんので。聞いてる方は。

(仕分け人)

お客さんについては、観客も入ってるわけですか。

(説明者)

両方はっております。

(仕分け人)

芸術、文化という非常に主観的な要素も強くて、それでもなおかつ審査して選ばれておるわけですけれども、何かそこには基準というものがあるわけですか。

(説明者)

審査については、基準を設けて、まず、その特色性、自主性、公益性、資金の妥当性、実現性というように、5項目に分けた審査を審査委員の方々にお願いをして、各団体、アピール、プレゼンテーションも含めまして、書類審査とプレゼンテーション、質問などを含めて審査委員会を開いていると。その中で、この5項目を基準に、実現性の高い、内容の適格性を審査していただくと。

(仕分け人)

その結果、審査に通って活動を開始していると。その活動の成果というものは、どのように見ておられますか。

(説明者)

事業実施後に、事業完了報告書、また成績報告書、決算書等の資料を提出していただいて、その中で書面による判断と、それと担当職員ができるだけ練習だとか本番の日だとかに出席させていただいて、検証させていただいております。

それから、参加者へのアンケート、観覧された方からのアンケートなども実施して、そこで色々どうだったかというお声を聞かせていただくというのもあります。

(仕分け人)

市が資金助成をし、会場確保し、広報活動の支援を行うということですが、減免もしてくれるし、先行予約もしてくれるしで、非常に手厚いなと思うんです。今お聞きしましたように、練習にも立ち会う、本番にも出席をする、審査委員会の運営も行うということなんですが、正職員の方 0.5、内容的にも 0.5 では収まらないんですよ。

(説明者)

実際に練習に対してすべては参加できませんので、ポイントポイントでしか参加できませんし、会場確保と、審査の前のヒアリングというか、申請されたときに、事業内容についてのヒアリングはかなり重要になってくると考えているので、そういうことになって時間と手間がかかっておりますけれども、その範囲の中で。

(仕分け人)

で、積算としては 0.5 なんだと。

(説明者)

そういうことです。

(仕分け人)

結構、先ほど私申しましたが、手厚いと思うんですよ。お金だけでなく先行で市の会場を押さえてくれるし。それはもう団体でせずとも、市の方で押さえてくださるわけですね。

(説明者)

はい。その辺は審査が通って実施を決定すると、その団体さんと打ち合わせしながら、回数、15 回の制限を設けてるんですけども、その範囲の中で打ち合わせしながら会場を予約していくという。

(仕分け人)

他市町村と比べましても、ずいぶん手厚いようだなと。何かその辺のお考えって。

(説明者)

芝居を作るとなると、どうしても一定の練習会場が必要になってくるといふ方には考えていて、コーラス、合唱でもそうですけれども、やはり練習しないと、いきなりでは良いものはできませんし、一体感も生まれませんので、子どもたちとしてもお客さん

として参加するんじゃないしに、自分たちが作っているという思いを一つにする作業の中では大変重要な分だと思います。そのことによって、舞台に立った最後に、やってよかった、仲間になれたとか共感できた、舞台に立った実感ができるという。そのためのステップだと思います。その辺はとても重要なんですけども、先ほども言いましたように、そのことで一般の他の利用団体の方に制限かかっている事実もありますので、その辺については見直しが必要だと我々は考えています。

(仕分け人)

それに関連するんですが平成 21 年、22 年は決定数が 3 団体ということで、それはひよっとして、15 回もの先行予約をしなくちゃいけないから、8 団体だとちょっと回らなくなってきた、3 団体ということで。

(説明者)

でもないんですけども、予算の総額が助成できる予算の総額がございまして、1 件について 30 万円というふうに限定してまして、その申請された団体の上位から予算を取っていくと、3 つで予算を超えてしまう。ということで、3 団体しかできなかったということです。会場の関係ではないです。

(仕分け人)

ということは本来の目的として、子どもが輝くまち枚方を実現するというので、どこに軸足を置くのかなというのがお伺いしたいのですが。たくさんの機会を与えた方が多くの人々にいくのではないかなと。これ、広報活動もやってもらえとなれば、すごくいいですね。さっきおっしゃったように、すごく手厚いですから、たくさんの方々にその利益享受してもらったほうがいいのかなと思うんだけど、たまたま上位の人が 30 万円ばっちりの予算を申請してきたとか、順番にいったら 3 つで終わりっていうのは、どういう考えなんですかね。

(説明者)

そうですね。上限を決めることについて、やはり問題があるのかということは、絶えず議論してるんですけど、上限 10 万円、5 万円というふうに低くすると、負担が増えてくると、大きな催しがしにくくなっていく、企画の幅が限定されてくるというところもある。けどもご指摘いただいたように、広くたくさんの団体に活用していただくことで、たくさん子どもたちに感動を味わってもらっていい日にできる機会を、チャンスを与えたいという気持ちはたくさんあります。その辺では見直しが必要かなと思います。

(仕分け人)

さっき、審査基準のところ、事業計画がしっかりしてるかとか、確かに補助金もらって、それを自分たちで飲み食いしたりしたら困りますから、審査の基準があるのは当然かと思いますが、ただ、それをしっかりしてる人が上位ランクするっていうのになると、それに対しては別に援助がなくてもきっとできて、何というか、そういうのがまだできてない人にこそ援助してあげたほうがいいのかなという考えはどうでしょうか。

(説明者)

おっしゃるとおりだと思います。

(仕分け人)

毎年申請される団体がいくつかあって、その中で審査されて選ばれてますよね。で、選ばれなかった団体は活動はされてるんですよね。

(説明者)

独自でやられてる団体もあれば、この申請をもらえなかったらプロの方を呼んでこれないということで、事業の実施をあきらめる団体もいらっしゃいますし、形を変えて、我々のできる範囲で何とかしようという団体もありますし、あと、枚方市内でそういう文化活動されてる団体は大変たくさんあって、熱心に活動されてはります。ので、我々としても大変ありがたいことなんですけども、自分たちでやられてる団体もございます。

(仕分け人)

そして、毎年というか、今年、去年とあって、その前なくってとか、1年おきの団体とかもあるじゃないですか、支援を受けていらっしゃる団体で。受けられなかった年に活動できてたのか、同じようにできたのかまったく違う形でされたのか、どうなんでしょう。例えばですね、去年なくて一昨年あった、この、とれぶりんか劇団でしたら、昨年度は活動されたんでしょうか。

(説明者)

されてません。

(仕分け人)

同じように、支援がなくても。

(説明者)

中身は同じかどうか確認は取れてませんが、日常的にされるようなところは自分のところで活動色々されてますので、その中での発表会とかはされてますけども。

(仕分け人)

支援が決まった段階で、内容が変わってくるってことでしょうかね。

(説明者)

大きくできるとか。その分舞台装置を良くするとか、会場を確保できるとかとなると、やはり中身は少し違うと。

(仕分け人)

はい、わかりました。

(仕分け人)

で、これ写真で見ると結構大きなホールの写真なんですけど、これは会場、本番の会場というのは色々あるんですか。大きなホール。

(説明者)

はい、市民会館大ホールもあれば、生涯学習市民センターの小さいホールもあります。150人程度のところもあれば、大ホールは1,440人。

(仕分け人)

大ホールを使う場合には、その使用料、まあリハーサルを含めて現状いくらですか。あるいは色々リハーサル室だとか、あるいは例えば、ピアノを借りるとか。

(説明者)

機械設備については減免です。

(仕分け人)

それは実際のところ、普通、大ホールを前日から借りるとか含めて2日間パッケージでということをやれば、もっと、この補助金どころじゃないんですよ。

(説明者)

そういうことです。

(仕分け人)

すごい金額だと思うんですね。

(説明者)

ただ、舞台を回してもらって照明さんや音響さんの人件費は、自己負担ということです。

(仕分け人)

まあ、それはそうですね。

(説明者)

それが補助の対象にもなりますけれども。

(仕分け人)

それが補助の対象になると、給付、本番自体、ほとんどタダでできるって話です。

(説明者)

そういうことです。

(仕分け人)

それが一番、そういうことも合わせて大きい。

(説明者)

会場支援というのは、かなり大きなウェートを占めている。各生涯学習市民センターは有料で使えますので、何千円なり、まあ何万円というのはいないんですけども、会議室等を取るとなるとかなりの金額になる。

(仕分け人)

でも、実際この催しものをするときには、入場料とか無料なんですか。

(説明者)

いや、有料の場合もあります。

(仕分け人)

有料かどうかは、それぞれの主催者が決めるんですね。

(説明者)

はい、そうです。

(仕分け人)

別に 3,000 円もらおうと 5,000 円もらおうと、それはまあ補助金の条件が何かになるんですか。

(説明者)

上限というのは決めてませんが、妥当な金額で、収支の決算というところで、あまりにもぎょうさんな収入にされるのであれば、補助する必要ありませんので。

(仕分け人)

なるほど。まあわかりました。

(仕分け人)

今まで拝聴しておりますけど、芸術文化というより、参加とか、あるいはコミュニケーションとか、別の要素があるような気がするんですよ。こうして聞いておりましたら、今、補助金の内訳がどうなってるのか我々知らないんですけど、それなんか見ますと、団体のあり方、あるいは見通し、これからの考え方がわかるんですけど、どうも今の補助金の対象の内容を聞いておりましたら、文化芸術より、むしろそういう具体的なお金がほしいと、会場も貸してほしいと、そっちの方へ関わるような気がするんですよ。だから、本当に芸術と文化であれば、一回きりじゃなくて、あるいは継続的にそれがどんだけ活躍するのか、実際問題そういうのはあり得ないんで、若干どうかなというのはありますけど、そこのところが何となく単発でしてあげた。それで良かった、これで終わり。何かその辺、少し継続性という意味では問題があるのかなという気がするんですけども。

(説明者)

各団体とも、お金がほしいから与えるということではなしに、子どもたちにこういう夢を与えたい、この舞台を感じてほしい、この芸術を体験してほしいという思いがあって申請をされておられると思います、どの団体も。そして、日常の活動の中では、それぞれの団体さんが、自分たちがその思いをもって活動されておられますので、プロの方がおいでになってやってるわけではありませんし、一回きりということでは僕は決してないと思ってます。それぞれの活動団体さんについては、それなりの思いを持って、子どもたちだけでなしに、自分たち自身の舞台を作ったり、自分たちの音楽を作ったり、芸術活動されているこの喜びを子どもたちにも味わってほしいと思って、活動、申請をされてきておりますので、決して単発でお金がほしいからやるということではないと思ってます。ただ、会場支援というのは非常に大きく活動、この芝居を作ったり、この音

楽を作ったり、芸術をするのに必要な会場の確保というのは、設備を望まれておられる団体が多いのは事実でございます。

(仕分け人)

私もよくわからないんですけども、実際問題そういった活動を運営しようと思ったら、色々お金要るんですよ。お金ほしいって、端的な言い方ですよ。実際は、活動を発展、展開するためには必要なんですけども。そうはいても、芸術と、あるいは文化というのを考えますと、それだけでは収まらない。もっと色々、人間の開発といいますか、能力だとか色々なことを考えますと、それを結果で見ましたら1回、2回、最大2回でしたかね、この参加申し込んで活動してるの。あとは1回で終わってると。この現状を見たら、将来的にこういう展開が長続きするのかなって感じがするんですけど。

(説明者)

団体においては毎年申請をされてるけれども、プレゼンとか審査とかで惜しくも落ちられる団体もまたありますし、それも日常的な活動を続けておられるというそういうふうな感じです。

(仕分け人)

すみません、もう一つ別のことを聞きたいのですが。文化協会とか文化団体連合会とかありますよね。

(説明者)

団体はありますね。

(仕分け人)

いや、色々な文化活動をされている。

(説明者)

ジャンルに分かれてありますね。

(仕分け人)

ジャンルに分かれてるんですか。

(説明者)

はい。合唱協会とか、吹奏楽協会とか、人形劇連絡会、演劇連絡会。

(仕分け人)

それぞれ縦割りで活動されていらっしゃるんですか。島に分かれてるんですか。それ一つで文化団体で、組織を作って。

(説明者)

昔、昭和の終わりぐらいに、平成の初めまでは枚方市文化協会というものがございました。それが発展的に改革されて、財団法人の文化振興事業団という形に発展されてる。

(仕分け人)

事業団あるんですね。事業団っていうのは、そういう文化活動をサポートする仕事を民間サイド、まあ市の方で色々お金もらってるんでしょうけど。そこは何もこれに関与してないんですか。

(説明者)

日常的な団体育成支援については、例えば合唱協会。

(仕分け人)

つまり行政が、補助団体決めちゃうでしょう。決めるから、ああしろこうしろっていうわけじゃないけれど、何やってるか含めて色々チェックしないといけないから、控え目とはいえ、400万円の人件費、70何万円かの補助金を出したり、400万円の人件費を使ったりするわけでしょう。普通、こういうのはそういう事業団とか、あるいは文化団体があれば文化団体の包括的な補助金にして、そこで自分たちで調整をしてやっていただくという形を取るわけですよ。全部それを行政が一つ一つの団体特定してっていったら、色々政治的プレッシャーじゃないけども、それは補助金もらってやれるところと、そうではないところでは天と地の差ですよ。ただで会場借りれて、しかも15回まで会場確保できて、会場確保も大変ですわね、これ。枚方市さん、相当市民のそういう文化活動が盛んな地域だと思ってますから、どんな活動がされてて、その中でごくわずかのところが選ばれる。なおさら子ども関連でやってるからということも選ばれる要因なんでしょうけども、それを行政がある面、色んな基準とはいえ一方的に決めて、なおかつ同じような団体が度々出てくるっていう話ですと、やっぱり行政としての文化活動の振興の在り方自体に、他の文化活動されてる方からクエスチョンマークが付いてるんじゃないですか。だから、そうであれば文化振興事業団みたいなところがあるのであれば、そことの関連で役割を担っていただくということは考えられないんですか。

(説明者)

今のところ子ども芸術については文化観光の方が担当させていただいておりますけれども、その他一般の方含めて、合唱協会と合唱祭を共同で開催されるなり、団体支援をされる形で全体の包括的なところは財団が受け持っていて、子どもについては文化観光課が担当しているという分担という形になっております。

(仕分け人)

私、先ほどお聞きしましたのは、採択されなかった団体の支障にならなければいいなという観点でお尋ねしたんですが、広報活動につきましても、採択されなかった場合、全然掲載してもらえないのでしょうか。

(説明者)

音楽の部分とか、市のホームページ等々には生涯学習情報システムというのがございますので、そこで独自に上げていただくこととか、そういうところに出していただくのは可能でございます。

(仕分け人)

支援としては。

(説明者)

支援としては、特に行っておりません。

(仕分け人)

そうしましたら、平成 19 年のときは決定数多いですね。決算額も同じくらいの額で、今年は 3 事業ですけど、19 年は 8 事業ですね。人件費も同じくらいの額で出てたんですかね。ここ決算額のところ 19 年ないんで、もし 8 事業でもこのとおりやれているのであれば、そのときの方が良かったんじゃないかなと思ったんですが。

(説明者)

この年の申請自体が少額な申請が多かったということで、毎年大きなホールでとかいうことではないんで、金額的には大きな金額というのが、30 万円を超えるようなものが少なかったということで、件数も増えてる。

(仕分け人)

件数が増えると、先ほどから補助金以外に職員さんが色々動いていただけるのが、すごく多くなったわけじゃないんですか。

(説明者)

回数の少なさとか、それによってまた職員のかかわり方もかわってきますので。

例えば、子どもミュージカルであれば非常に長い時間やります。和綴じなんかですと、1日2日の事業になりますので、そういったところで短い期間の部分が多くなりまして、それと、先ほど言いました少額の補助が多かったために、この額で8件があったということなんです。

(仕分け人)

ということは、先ほどの一番最初の話に戻りますけど、芸術文化、育成するんであれば、そういう少額の、始められた小規模の方々こそ優先すべきっていうふうに思ってしまうんですが、そのときの決定の経緯みたいなのは、今年なんかは3つだけですよね。そこから、他の7事業の方々ってのは、そういう方々は含まれなかったのかなと思うのですが。

(説明者)

一つ基準のところでもお話をさせていただいたんですが、特色のある、子どもたちが興味をもって参加できるようなものでも、普段の、例えばいつでも経験できるような部分については、それはそれでやっていただけたらいいんじゃないかと。これの子どもたちに、普段は経験することができないものについて提案があったときに、審査の上で決定させていただくという中で、順にそういうものが審査結果で上位からいくんですけれども、こういったときに補助金の関係が、まだ余裕があったときには、これ特色としてどうかなっていうんですけれども、団体さんとしてはそれはひとつやってみてもどうかなっていう判断をさせていただいたときにも、それも助成に入れさせていただくということもございましたので、こういう形になってると。ちょっと答えになってないかもしれないですけど、19年度のときの、一応基本的には子ども芸術の申請でございますので、参加者に子どもがいないと、助成する対象にはならないと。最低でも10人くらいは子どもさんの参加をしてくださいということで、1件か2件、子どもさんの参加が少なく、集まらなかったというのがございまして、その分についても助成金がなくなっているということでもあります。

(コーディネーター)

そろそろ時間ですので、評価作業シートの記入にとりかかってください。

1番不要の場合ですけれども、趣旨の目的、妥当性なしの場合は、この場合無いと思いますので、子どものためという目的はいいけれど、この補助金という手段はどうだろう、不要じゃないかという場合は不要。民間は、先ほどのお話にありましたけれども、事業団が支援するとか、あとは文化団体を通して色んなことを決めて、税金を使わ

ない場合は2番民間を。2番 国・府・広域は、それを国とか府、もしくは周辺市町村広域でやる場合は2番 国・府・広域。今のやり方をもう一回見直すもしくは縮小する、改善したやり方をするという場合は3番枚方市・要改善。4番は枚方市・現行通ということで評価いただきたいと思います。書きながら進めたいと思いますが、よろしいですか。

(仕分け人)

先ほど、練習を見て回るとかいう話があったんですけども、0.5人という人件費をかけてそれをやる必要性が本当にあるのかなと。平成18年は9団体あって、今は3団体でってことであれば、見回り回数とかも減っていくのか、いかないのか、わからないんですけども、その人件費って何のために必要なのかという素朴な疑問なんです。

(説明者)

実際には積算では0.5になってますけども、回数が少なくなると、事務量も減ってきますし、0.5も出るかなというのも事実です。練習もすべてを見て回るわけではなしに、やはりポイントポイントになりますので、22年度については0.5で済むかなと。うちとしても、他にもたくさんの業務を持っていますので、人員の振り割りについては検討していかないといけないと思っております。

(仕分け人)

練習を見て回るというのは、補助金がきちんと適正に執行してるかとか、そういう意味合いなのかなと思うんですが、1回2回見に行ったらそれがわかるのかという気もしますし、それをやるためだけに人が要るっていうのは、ちょっと疑問があります。

(説明者)

もちろん、その練習を見てもらうだけの人ではなしに、一番重要なのは、申請のときのヒアリングと審査までの打ち合わせ、それと、審査を通られた後の会場確保についての打ち合わせとか、本番の迎え方とか、広報の仕方というところに人を割いている。練習を見に行くところに人を割いているわけでは決してないと。

(コーディネーター)

ご記入いただけますか。では、事業番号11子ども芸術文化育成支援事業の評価を行いたいと思います。1番不要(1人)、2番 民間(1人)、2番 国・府・広域(0人)、3番枚方市・要改善(4人)、4番枚方市・現行通(0人)ということで、班の結論は、3番枚方市・要改善ということにしたいと思います。

(コーディネーター)

個人的には、文化団体さんの、何回かこういう補助金を見て、強い団体さんは新しいところを支援する枠をいただきたいと思います。みんなでそれぞれが私たちは子どもにいいことをやっているんだって言うけど、こっちも子どもによくて、結局まんべんなくすべて食べることが一番体によくてということなので、そうやって自分たちでどんどん水準を押し上げていくことが、住民文化からの住民支援につながっていくと思うんです。なので、広く浅くじゃないですけど、そういった住民支援っていうのも、やっていただけたらなと思います。一方で、やっぱりどうしても偏りがち、似たような感じ、採択を得た団体に支援がどうしても集まりやすいので、その辺はまんべんなくというか、自立を促進するように進めていただければなあと思っております。

(コーディネーター)

不要の意見を。少数意見で。

(仕分け人)

もともと私自身の考えとしては、これは自助努力ということではないかと思えますね。わざわざ税金を出して推進する、支援するという割には効果、あるいは評価というのは難しい。自分たちの努力の中で文化性、あるいは芸術性を高めていってほしいということです。

(コーディネーター)

それでは民間の意見を。

(仕分け人)

最近事業仕分けでなかなか出られないんですけど、私、地域のコーラス活動の団長をやっております。補助金もらえると本当に楽ですよ。間違いない。

ただね、特定団体に補助金を出してる自治体ほど、地域の文化活動がそこに市民がみんな行っちゃうんです。特に、色んな分野があるんですけど、特に音楽系なんかは、チケット自分で作らなくちゃいけない、買い戻さなきゃいけない、大変なんです。それでも自分たちが発表するということで、やる。ところが、役所がおんぶに抱っこのようにやってくれるところはチケットを安く売れるし、しかも役所がそれを捌いてくれるし、会場もタダだし、ということでもとても楽なんです。だから自分は歌うことを楽しむことに専念できるんですね。だからみんなそっち行っちゃうんです。そうすると、他の文化活動、ぺんぺん草生えちゃうんです。だから、本当の地域の文化活動を、多様な文化活動を育成するということからすれば、極力特定団体に偏ったような補助金はやらないほうが、結果的にはいいんだろうというのがまず一つでして、同時に子どもが入ってるか

らいいって話じゃないとたぶん思いますね。だから、まったくお金を出さないかどうかというの微妙ですから、そういうのを、私はどこから自治体なのかわかりませんが、やっぱり、民間が主体になった取り組みというのが基本だと思いますし、そのときにお金は出さないという基本。その方が結果的にはいいと思いますし、それによって地域の文化活動、あるいは子どもの芸術育成活動が損なわれることはないと思います。それは全国的にもたぶんそうだろうというふうに思っています。

(コーディネーター)

では要改善を、お願いします。

(仕分け人)

支援の仕方というか、会場も確保して、練習場所も確保してというところを、例えば一番お金がかかる会場だけにしましょうとか、そういうふうに色々していくと、たくさんの方に支援をしていけるんじゃないかなと思います。

(コーディネーター)

はい。ありがとうございます。それでは子ども芸術文化育成支援事業はこれで終わりにしようと思います。どうもありがとうございました。